

2018年2月1日付 建設通信新聞 第12面 (最終面)

「個人の能力」問われる時代 需要高まり、合格者数倍増

■合格しやすくなっている？

2017年度1級土木施工管理技術検定実地試験の合格率は30.0%（合格者9,424人）であった。受験したという読者もいるかもしれない。この数値を見て簡単な試験だと思うか難しいと感じるか、捉え方はさまざまだろう。

ただ、12年度から実地試験は毎年30%以上の合格率を維持しており、過去8年で最も合格率が低かった10年度の合格率18.5%（合格者数5,720人）と比較する

と合格率は1.5倍に上昇している。また、合格者数で言えばなんと倍近くに増えているのだ。

合格者数の増加は、「国土強靱化」政策や都市開発に伴う大規模開発も手伝い施工管理技士への需要が高まっていることなど多様な要因が考えられるが、このデータを見る限り施工管理技士への門は広がっていると思ってよさそうだ。

■建設業界の必須アイテム

今、日本の社会では企業を取り巻く状

況が激変している最中だ。終身雇用制の崩壊など、過去の常識は通用しなくなり新しい風を歓迎する時代になってきた。同時に人物の見方も変化を迎えているようである。

これまでは「学歴」や「所属企業の規模」、そして「経歴」といった「ブランド」が主に問われてきたが、今では「あなた自身」が「これから何を築けるか」。つまり、ブランドで判断されることよりも、「あなただからこそできること」という「個人の能力」がダイレクトに問われる時代になっている。このチャンスを最大に生かすならば、資格取得は重要である。

先述したように合格者数が倍増しているとはいえ、施工管理技士はまだまだ不足している。施工管理技士は、一般建設

最小の努力で合格へ！
施工管理技士への道①

試験区分	対象年度	2010年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
学科試験	受験者数	39,733	34,241	37,703	32,639	33,130	35,810	35,340	34,629
	合格者数	21,066	13,959	20,674	19,568	19,389	19,551	19,454	22,930
	合格率	53.0%	40.8%	54.8%	60.0%	58.5%	54.6%	55.0%	66.2%
実地試験	受験者数	30,864	26,617	27,675	29,182	28,010	27,547	27,846	31,414
	合格者数	5,720	5,544	9,585	10,299	11,064	10,266	10,219	9,424
	合格率	18.5%	20.8%	34.6%	35.3%	39.5%	37.3%	36.7%	30.0%

2018年度1級土木施工管理技術検定試験の申込期間は、3月16日から3月30日まで。
願書は2月23日から発売。学科試験は7月1日、実地試験は10月7日

業および特定建設業の許可基準の1つである、営業所ごとの専任技術者および工事現場に置く主任技術者や監理技術者の有資格者として認められる。だからこそ、どの企業も1人でも多くの施工管理技士取得者を高く評価し、求めている状況だ。この状況は今後も長い間続くことが予測される。

そこで、このコラムでは次回より5回にわたり多忙な受験生が最小の努力で最大の結果（合格）を出せるよう受験に役立つ情報を公開していく。

本コラムにより、施工管理技士への第一歩を踏み出していただければ幸いである。

(C I C 日本建設情報センター)